

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200470		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホームおおつ		
所在地	徳島県鳴門市大津町大代字戎野472番地		
自己評価作成日	平成30年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域での生活の中で、家族様や地域住民、民生委員に老人会の方々との交流の場を作り、運営推進会議の参加、また近隣の小学校やボランティアの方々定期的に交流があり、施設の地域交流ホームにて、芸能発表会や手品、利用者様との交流の機会があり喜ばれている。老人会の方々とは、囲碁ボールを一緒にされ地域の大会にも参加している。事業所内に託児所があり、季節に応じたイベントに子ども達も参加し、一緒に楽しまれている。お食事会やお茶会など地域の店を利用している。職員のスキルアップの勉強会や、地域の方々にも認知症についての理解や病気なども、運営推進会議や、老人会にて取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から入り込んだ周囲に田園風景が広がる介護老人福祉施設の3階に位置している。職員は、事業所理念を共有して日頃から笑顔の溢れる穏やかな生活を送ることができるよう、プライバシーに配慮しながら支援をしている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所とともに地域との繋がりを大切にし、施設を地域に開放している。利用者や地元小学校で開催される囲碁ボール大会に参加したり、夏祭りや敬老会を開催したりして、地域の老人会や民生委員、小学校、ボランティアと交流を深めている。また、定期的に季節ごとの食を通じてのイベントを開催し、利用者や家族、地域の方との交流を「食」を通じても行っている。災害時対応の訓練も地域との協力体制を築いて実施している。備蓄や災害時対応品も併設の他サービス事業所に常備している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			花	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日々のカンファレンスの中で運営方針を職員に周知徹底している。運営理念は利用案内文に分かりやすく書かれ、入居者及び家族には、入居時に案内文をもって十分な説明がされている。	事業所は、グループホーム独自の理念を法人経営理念や職員業務心得と共に事務室に掲げている。職員一人ひとりに周知を行い、共有しながらケアの実践へ繋げている。入居時には、利用者と家族に理念の説明を文書で行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物会や散髪等を地域の店を利用し、地域の関わりを目的とした機械もっている。夏祭りなど定期的に行い、また老人会等に併設介護施設を開放している。	事業所は、地域の老人会に施設を開放しており、月に1、2回囲碁ボールクラブを中心に利用者と交流を図っている。地元小学校で開催される囲碁ボール大会にも利用者と職員が共に出場したり、運動会に参加したりしている。また、事業所主催の夏祭りや敬老会などに地域住民を招待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い、高齢者また高齢者を抱える家族へ何か困ったことはないか呼びかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状報告を行い、民生委員や老人クラブ、地域包括支援センターの方々にグループホームの生活を見て頂き意見を参考にし、サービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、老人会、民生委員、保険者、地域包括支援センターの出席を得ている。報告や情報交換を行い、出された意見及び提案をサービスの質の向上へ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の報告会に同席して頂いたり、自施設の行事への参加を呼びかけている。月報等により現状の報告を毎月行っている。	毎月、管理者は実績報告の提出や運営推進会議時の連携のほか、相談事項を市担当窓口に出向き、情報交換をしている。また、介護相談員報告会にも参加して密に連携を図るよう心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会を開催し、全職員が参加している。入居者が抱える病気(身体・精神的)を理解している。現在身体拘束の対象はいない。	年2回、法人で身体拘束に関する委員会を開催している。委員会には、多職種の職員が参加し、自己点検シートでのチェックや研修会の機会を設け、拘束の具体的な取り組みについて共有を図っている。利用者の様々な安全確保の観点からエレベーターのナンバーロックをしている。法人施設玄関は、防犯上午後9時～午前7時までの夜間帯は施錠している。	全職員で、利用者の安全面に配慮しつつ、拘束感をなくすために、身体拘束に関する委員会を含め、外部者も出席する運営推進会議などの会議で再度検討されたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会を開催し、全職員が参加している。状態の把握や家族との連携を保ち、信頼関係に努めると共に、チームワークを強化し虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、必要な方には支援できる体制がある。家族からも相談があり、入居時の人権を尊重したサービス提供に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に基づき、十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口責任者、第三者委員等を文書で明示し、入居者・家族に伝えている。またホームの入口にご意見箱を設置しており、相談・苦情を気軽に言ってもらえるような声かけを行っている。	事業所の入口には、大きな昔ながらの「赤ポスト」があり、相談・意見箱として工夫している。玄関には、介護相談員の顔写真付の表示や苦情相談の受付窓口などの相談体制を掲示している。利用者や家族の運営に関する意見を聞いて反映させる体制を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞けるような会議を開けている。職員面接を実施している。	管理者は、年2回の職員面談や月1回のワーカー会議、法人全体職員会議などで職員の意見を聞いたり相談を受けたりする機会を設けている。また、日頃のケアの中でもそのつど意見を聞いて、ともに話しあいながら反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのレベルを把握し、自己点検シートにて自己目標の設定・自己評価を全職員が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では全職員を対象とした研修の年間計画があり実施している。施設外での研修には勤務年数等を加味し参加させている。研修参加者は復命書等を作成し、報告を行っている。また、研修結果を発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修に積極的に参加し、同業者とのネットワーク作りに努めている。県外事業所への現場実習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には本人様との面談で相談・要望を聞き現状を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、家族の相談等、要望を聞き現状を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状を把握した上で入居判定委員会が入居を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできるところはして頂き、その人その人のレベルに合わせたケアを提供し、状態に応じ支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加された時には、家族と共に活動したり、外泊・外出など入居者と一緒に楽しんでいただける雰囲気作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた生活ペースを基に、過ごしやすく社会との関係や関わりを継続し、もてるよう支援している。	職員は、利用者がドライブに出かける時には、希望があれば実家など馴染みの場所に立ち寄りよう支援している。また、外出や外泊の機会が多い利用者は、家族との協力体制を構築している。馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の生活ペースを基にし、リビングにて他の利用者様との交流を支援し、トラブルがないよう過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院にお見舞いに行ったり、他施設を訪問し、継続した関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの状態、生活歴、希望等を把握し、その人らしい暮らしができるよう話し合いサービスを提供している。	職員は、日頃のケアの中で利用者の表情や仕草から希望や意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な場合は、家族の意見やこれまでの生活歴、趣味などから意向を把握し、本人にとって最良の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に本人・家族・生活歴を聞き、把握しサービスに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を把握し、職員間で情報を共有し、生活や身体レベルに合った支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々の現状の把握に努めている。会議録を作成し、回覧、ケアの取り組みにあたっている。	事業所は、利用者や家族、さまざまな職種でケア会議を開催している。その人らしい暮らしを続けるため自立支援に向けた介護計画の作成を行っている。3か月に1回、モニタリングや見直しを行い、利用者の状態の変化に応じ、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルがあり、日常の具体的状況や様子が記録され、保存されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時入居者の状態を把握し、その時々々の要望に応じた支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散歩など近隣に出かけたり、地域の人たちと顔見知りの関係を築けるようにしている。地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医・希望受診医を聞いている。また些細なことでも相談・報告するよう努めている。家族や本人の意向を尊重している。	事業所は、入居時に利用者の希望するかかりつけ医を聞き、受診継続の支援をしている。また、利用者や家族と相談し、希望があれば月2回の精神科の往診を支援しており、利用者や家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設に常駐している看護師に相談する。また24時間相談可能な協力病院がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中に病院に伺い、主治医に状態を聞いている。またソーシャルワーカーとも密に連絡を取り合い、現状の経過また退院等の話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際やそのような状態になる場合には、本人・家族立ち合いのもと、今後の方向性について話し合っている。	事業所では、重度化した場合や看取りの支援のあり方について説明し、同意を得ている。看取りケア対応には、利用者や家族、主治医、職員で随時話し合い情報を共有しながらチームで支援する体制を整備している。看取り対応の職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会と施設研修を行っている。また緊急連絡網を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に勉強会と施設研修を行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し、地域住民の方や老人会の方も協力を得ている。消防署や警察署とも連絡をとっている。	年2回、夜間の想定も含めた消火・避難訓練を実施している。訓練には、地域の方や老人会の方の参加も得ている。想定は、火災のみではなく地震、津波等の避難訓練も地域の方の協力で実施している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所に備蓄や災害対応備品を準備している。	

自己	外部	項目	花		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の仕方やプライバシーの研修もおk内、一人ひとりに合わせた声かけを行っている。また、訪室時にも必ずノックし、人格の尊重に配慮した支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保をケアのなかで心がけている。特に声かけや排泄時には配慮した支援に努めている。年1回、法人全体のプライバシー研修会に参加してサービスの質の向上へ活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で表情や行動の変化に気をつけ、その時に応じた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮しながら、起床や入浴時間等について、本人なりのペースで行えるよう、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共にメニュー作りもし、調理や食事も共にしている。また、お茶会やお食事会も定期的に開催している。	事業所では、地元の野菜などを多く取り入れ、利用者の好みを反映したメニューを作っている。簡単な調理は利用者に担ってもらって、楽しい雰囲気の中で食事の準備や調理を行っている。菜園では季節の野菜と一緒に作っており、収穫して食事を作る喜びや食べる喜びを感じることができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取総量、水分摂取量を記録している。併設施設の管理栄養士に献立も相談し、チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し、習慣にしている。声かけを行い、入居者に磨いてもらった後、職員が確認している。また必要に応じて、家族・本人に説明し、歯科衛生士による週1回のクリーニングや歯科往診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう、随時排泄支援をしている。また排泄チェックも行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握している。トイレでの排泄の自立へ向けた排泄誘導を中心にケアを行っている。支援にあたっては、本人の誇りやプライバシーを損なわないような支援に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気をつけ、腹部マッサージや適度の運動を続け自然に排便できるよう配慮している。必要に応じて個別にポカリゼリーなども作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間やその人に応じた支援をしている。また、拒否の時には声かけを工夫し、対応している。	週3回、午後から入浴時間を設けているが、利用者の希望や状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む方には、声かけを行ったり、時間や担当者を変えたりして本人が納得して気持ちよく入浴することができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩・家事等を日中の活動を通じて、その方に合わせたリズム作りをしている。また眠れない方は医師と相談し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気や服薬の目的を理解し、正しく服用できるよう支援している。変化がある場合は家族・医師にも連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で入居者一人ひとりの楽しみ、役割を見出し、得意な分野で活躍できる場面作りをしている。また、家族に手紙を出されたりと、楽しみにされている入居者もいる。移動図書館なども利用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を取り入れ、その日やその時の状態に合わせてバラ園やコスモス祭り見学、いちご狩りに出かけている。また、家族の協力のもと遠足も実施している。	敷地は広く、敷地内の菜園や散歩コースに日常的に出かけている。また、近所のコスモス畑やバラ園など、行きたいところへも出かけている。家族の協力を得た上で、遠足などにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物会時には、できるだけ自分で支払っていただき、職員は見守りしている。金銭の管理ができず、ホームで預かっている方には、個別の出納簿に記帳し、定期的に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連携を考慮しながら、手紙を預かったり、電話を掛ける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候により、照明の数を工夫している。音に関しては、入居者に聞き確認を取りながら行っている。入居者の表情を見ながら、トーンを調整し、ストレスを感じさせないように配慮している。	事業所の共有スペースは2つのユニットが1つの仕切りで分けられていて、利用者同士の交流がし易い環境になっている。ホールには、大きな窓があり日当たりが良く明るい。清潔感を保ち、利用者がゆっくり過ごせる場所の提供に努めている。壁面には季節の行事写真や利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせる場所となっている。また、大きなバルコニーには、季節の草木が植えられ、日光浴などをして過ごすことのできる癒しの空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のパブリックスペースには、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、個別で使用され、また気の合った方同士で過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを本人と家族と一緒に選んでもらい、持ち込んでもらっている。また個性のある居室作りを入居者の方と共に取り組み、一緒に作品を作り、飾り付けている。	居室には、利用者の馴染みの家具や家電、家族写真、趣味の作品などを多く持ち込んでもらっている。一人ひとりの好みの壁面飾りや家具を配置し、居心地のよい居室の環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の維持のために自分でいいただくよう、必要に応じてサポートしている。居室入り口には手作り表札を設置し、またトイレ等も分かりやすいように表示している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月	月	月
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日々のカンファレンスの中で運営方針を職員に周知徹底している。運営理念は利用案内文に分かりやすく書かれ、入居者及び家族には、入居時に案内文をもって十分な説明がされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物会や散髪等を地域の店を利用し、地域の関わりを目的とした機械もっている。夏祭りなど定期的に行い、また老人会等に併設介護施設を開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い、高齢者また高齢者を抱える家族へ何か困ったことはないか呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状報告を行い、民生委員や老人クラブ、地域包括支援センターの方々にグループホームの生活を見て頂き意見を参考にし、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の報告会に同席して頂いたり、自施設の行事への参加を呼びかけている。月報等により現状の報告を毎月行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会を開催し、全職員が参加している。入居者が抱える病気(身体・精神的)を理解している。現在身体拘束の対象はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修を開催し、全職員が参加している。状態の把握や家族との連携を保ち、信頼関係を努めると共に、チームワークを強化し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、必要な方には支援できる体制がある。家族からも相談があり、入居時の人権を尊重したサービス提供に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に基づき、十分な説明を行い、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口責任者、第三者委員等を文書で明示し、入居者・家族に伝えている。またホームの入口にご意見箱を設置しており、相談・苦情を気軽に言ってもらえるような声かけを行っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞けるような会議を開けている。職員面接を実施している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのレベルを把握し、自己点検シートにて自己目標の設定・自己評価を全職員が行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では全職員を対象とした研修の年間計画があり実施している。施設外での研修には勤務年数等を加味し参加させている。研修参加者は復命書を作成し、報告を行っている。また、研修結果を発表する機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修に積極的に参加し、同業者とのネットワーク作りに努めている。県外事業所への現場実習を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には本人様との面談で相談・要望を聞き現状を確認している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、家族の相談等、要望を聞き現状を確認している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状を把握した上で入居判定委員会が入居を決定している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできることはして頂き、その人その人のレベルに合わせたケアを提供し、状態に応じ支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加された時には、家族と共に活動したり、外泊・外出など入居者と一緒に楽しんでいただける雰囲気作りを心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた生活ペースを基に、過ごしやすく社会との関係や関わりを継続してもてるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の生活ペースを基にし、リビングにて他の利用者様との交流を支援し、トラブルがないよう過ごしやすい環境作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月 実践状況	月 実践状況	月 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院にお見舞いに行ったり、他施設を訪問し、継続した関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの状態、生活歴、希望等を把握し、その人らしい暮らしができるよう話し合いサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に本人・家族・生活歴を聞き、把握しサービスに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を把握し、職員間で情報を共有し、生活や身体レベルに合った支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々の現状の把握に努めている。会議録を作成し、回覧し、ケアの取り組みにあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルがあり、日常の具体的状況や様子が記録され、保存されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時入居者の状態を把握し、その時々々の要望に応じた支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散歩など近隣に出かけたり、地域の人たちと顔見知りの関係を築けるようにしている。地域の行事にも参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医・希望受診医を聞いている。また些細なことでも相談・報告するよう努めている。家族や本人の意向を尊重している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設に常駐している看護師に相談する。また24時間相談可能な協力病院がある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中に病院に伺い、主治医に状態を聞いている。またソーシャルワーカーとも密に連絡を取り合い、現状の経過また退院等の話し合いも行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際やそのような状態になる場合には、本人・家族立ち合いのもと、今後の方向性について話し合っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会と施設研修を行っている。また緊急連絡網を作成している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に勉強会と施設研修を行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し、地域住民の方や老人会の方も協力を得ている。消防署や警察署とも連絡をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	月
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の仕方やプライバシーの研修を行い、一人ひとりに合わせた声かけを行っている。また、訪室時にも必ずノックし、人格の尊重に配慮した支援を行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で表情や行動の変化に気をつけ、その時に応じた支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮しながら、起床や入浴時間等について、本人なりのペースで行えるよう、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共にメニュー作りもし、調理や食事も共にしている。また、お茶会やお食事会も定期的に開催している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取総量、水分摂取量を記録している。併設施設の管理栄養士に献立も相談し、チェックしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し、習慣にしている。声かけを行い、入居者に磨いてもらった後、職員が確認している。また必要に応じて、家族・本人に説明し、歯科衛生士による週1回のクリーニングや歯科往診を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう、随時排泄支援をしている。また排泄チェックも行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気をつけ、腹部マッサージや適度の運動を続け自然に排便できるよう配慮している。必要に応じて個別にポカリゼリーなども作っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間やその人に応じた支援をしている。また、拒否の時には声かけを工夫し、対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩・家事等を日中の活動を通じて、その方に合わせたリズム作りをしている。また眠れない方は医師と相談し、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気や服薬の目的を理解し、正しく服用できるよう支援している。変化がある場合は家族・医師にも連絡をとっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で入居者一人ひとりの楽しみ、役割を見い出し、得意な分野で活躍できる場面作りをしている。また、家族に手紙を出されたりと、楽しみにされている入居者もいる。移動図書館なども利用している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を取り入れ、その日やその時の状態に合わせてバラ園やコスモス祭り見学、いちご狩りに出かけている。また、家族の協力のもと遠足も実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物会時には、できるだけ自分で支払っていただき、職員は見守りしている。金銭の管理ができず、ホームで預かっている方には、個別の出納簿に記帳し、定期的に確認してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連携を考慮しながら、手紙を預かったり、電話を掛ける支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候により、照明の数を工夫している。音に関しては、入居者に聞き確認を取りながら行っている。入居者の表情を見ながら、トーンを調整し、ストレスを感じさせないように配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のパブリックスペースには、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、個別で使用され、また気の合った方同士で過ごせる空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを本人と家族と一緒に選んでもらい、持ち込んでもらっている。また個性のある居室作りを入居者の方と共に取り組み、一緒に作品を作り、飾り付けている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の維持のために自分でしていただくよう、必要に応じてサポートしている。居室入り口には手作り表札を設置し、またトイレ等も分かりやすいように表示している。			